

## 月次祭・世界平和祈願祭 理事長挨拶

「月次祭・世界平和祈願祭」、おめでとうございます。

日本全体がサウナの中にあるような危険な酷暑が続いていますが、本日はようこそ聖地にご参拝くださいました。

先般私どもは、聖地・瑞雲郷において、「祖霊大祭」を執り行わせていただけましたこと、私どものうちに生きておられるすべての先祖の方々と共に、主神と、主神とご一体であられる明主様に心より感謝申し上げたいと存じます。

教主様には、公務極めてご多端の中、私どものために終日ご出座くださり、愛情溢れるお祈りと共にご教導を賜りましたこと、改めて心から御礼申し上げます。

今年の「祖霊大祭」の日は、西日本豪雨に見舞われた日でもありました。

私どもは、大祭の中で、教主様のお導きのもと祈りをお捧げしましたが、甚大な被害の状況が明らかになった今、改めてご一緒にお祈りさせていただきたいと存じます。

私が、大祭の折に教主様よりお示しいただいた祈りの言葉を申し上げますので、皆さまもご一緒に祈りを捧げていただきたいと思います。

この度の大雨により犠牲になられた方々、そのご家族、友人知人を始めとして、悲しみや苦しみ、不安や心配、戸惑いや疑いの中におられる方々、また、そのことを、見たり、聞いたり、感じたりさせていただいている私どもも、共に全人類を赦し、救うという主神のみ業にお使いいただいている、と思わせていただきます。

み心であれば、被害を最小限に留めてくださいますように、そして、悲しみを癒し、不安を和らげ、生きる勇気と希望をもって歩ませてくださいますように、と願うことをお赦してください。

私ども一同、全人類とその父母先祖の方々、天地万物一切と共に、赦され、救われ、生きたものとして天国に迎え入れてくださいますよう、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神に委ねさせていただきます。

み心の成し遂げられますようお使いください。お仕えさせていただきます。

ありがとうございました。

また、この度の西日本豪雨に際し、全国の皆さまから大きな真心が聖地に寄せられています。

①之光教団では、こうした皆さまからの義援金を、速やかに被災された信徒の方々にお届けさせていただきます。

ありがとうございました。

さて、私どもは、世界救世教全体の状況が大きく揺れ動く今、私どもと人類の救いにとって、極めて大切なことに気づかせていただける大きなチャンスと受け止め、自らの信仰の革正に取り組ませていただいております。

こうした中で、「地上天国祭」に先がけて、①之光教団の中にいつのめ教区が設置され、各々の主体性を大切にしつつ、教主様とひとつ心で、明主様を模範とし、主神にお仕えさせていただく全く新しい信仰の学びと実践に努めさせていただいております。

東方之光(MOA)といつのめ教団小林執行部、そして、その庇護のもとにある聖地直結の会による、教主様を排除することを目論んでの規則変更に対する反対署名には、主之光教団の1万人を超える署名と共に、いつのめ教団全信徒の半数以上、活動信徒の約8割にも及ぶ3万人を超える署名が集まりました。

その後、いつのめ教区では、6月15日に「リーガロイヤル大阪」で執り行われた「地上天国祭」に3,500名、その一週間後に愛知県で行われた「教主様と思いを共にする中部信徒の集い」には2,700名、さらに、7月21日に埼玉県で行われた、東日本教区を中心とした「教主様と思いを共にする信徒の集い」には1,200名の信徒が参集されたと伺っています。

このように、教主様のご教導のもと、明主様を真に求め、明主様がお示しになった全く新しい信仰をお受けしていこうという営みは、燎原の火のごとく全国に、そして、海外にまでも広がっています。

そして、10月8日には、①之光教団といつのめ教区が合同で教主様のご出座を仰ぎ、「インテックス大阪」において5,000名規模で「秋季大祭」を執り行わせていただきます。

こうした動きの一方で、当然のことではありますが、東方之光(MOA)の信徒の中にも、昨年惹起した、教主様に対する「尾行・盗聴・盗撮」という犯罪まがいの行いに不信を抱かれた方々がおられます。

さらに、この度の「教主様の推戴取り消し」や「岡田宗家の方々の追放」

に衝撃を受けると共に、新たな信仰の胎動に関心を持つ方がおられ、私どもの本部や布教所に東方之光信徒の受け皿を設けてほしいとの要望が多く寄せられるようになってきました。

①之光教団では、こうした状況を重視し、この度、①之光教団の中に「東方之光教区」を設置いたしました。

すでに、①之光教団のいくつかの布教所では、「感謝奉告祭」にいつのめ教団の方々や東方之光(MOA)の方々がご参拝され、共に全く新しい信仰の学びが行われています。

東方之光(MOA)の専従者、信徒の皆さまにも真実が伝わり、教主様のご教導のもと、共に明主様の真実を求める信仰の道を歩まれる方が一人でも多く許されることを願い、皆さまからもお知り合いの方々に積極的にご案内していただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、先般の「祖霊大祭」の折、教主様は、

いつのめ教区の方々は、そして、多くの海外の信徒の方々は、本年の地上天国祭を期して、明主様のご神名と善言讃詞を変更し、主之光教団の皆様が奏上されるのと同じ、「メシヤの御神」のご神名をもってご参拝をされることとなりました。

このようにして、場所や環境、立場などは違えども、共にメシアの御名に結ばれた存在として、心ひとつにメシアの御名をお唱えすることが許されたことに、私は大きな意義を見出しております。

と仰せになり、そして、

私は今、ご神業が新しい時代を迎えていることを実感し、将来への展望が大きく開けたような感がいたしております。

と、このようにお示しく下さいました。

私は、このお言葉を通して、「三界万霊メシヤの出でて喜びの声なき声は世に響くなり」という明主様のお歌が心に浮かんでまいりました。そして、すべてのものの中心に眩い希望の光が輝いていることに、大きく目覚めさせていただいたような感覚を覚えました。

昨年6月15日に①之光教団にお許しいただいた「メシヤの御神」という真に尊い御名が、今、いつのめ教区の方々とそこに繋がる海外信徒の方々に広

がり、さらには、今後東方之光教区に繋がる方々も「メシアの御名」に結ばれていることを知ることとなります。

私は、主之光教団に関わるすべての皆さまと共に、教主様のご教導のもと、「メシアの御名」をお受けしていることを知ったものとしての務めを果たしてまいりたいと決意いたしております。

教主様は、「祖霊大祭」において、「メシアの御名」について、

主神は、天地万物一切の創造をお始めになる前、天国で私どもをお生みになり、私どもに対し、メシアの御名をお授けになりました。

主神は、その御名の中に、ご自身に似た子供を生むという目的と、そのために必要なすべてのご計画を、ご自身の永遠の息と共に吹き入れておられます。

ですから、私どもの中には、メシアの御名と共に、その御名に込められた主神の愛があります。その愛による赦しがあり、救いがあります。

このメシアの御名は、私どもが天国に立ち返るために必要不可欠な御名であります。

と仰せになり、そして、

私どもは、すべてのものと共に、メシアの御名にあって、赦され、救われたものとして、すべての源である天国に立ち返らせていただき、“全人類をご自身の子供とする”という主神の創造のみ業にお仕えさせていただく務めがあると思います。

と、教主様は「メシアの御名」の大切さをお伝えくださいました。

私は、教主様がお導きくださる「神の子たるメシアの道」をお受けし、一人でも多くの方にお伝えしていくことが、主神の全く新しい救いのみ業にお仕えすることであり、そして、このことこそが、明主様がお示しになった「地上天国建設」と「人類救済」の道であり、私どもにとっての世界平和祈願に真っ直ぐに繋がっているものと信じております。

私どもは、「秋季大祭」に向けて、「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用”の実践として、“全く新しい布教”としてのお導きやお世話に、喜びと希望をもって大いに前進させていただきましょう。

まだまだ極暑の日々が続きますが、今月度の皆さまのご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう、お祈りいたしております。  
ありがとうございました。